



データ層を変更します Virtual Desktop Service

NetApp
February 01, 2022

目次

ストレージプラットフォームをリダイレクトしています	1
概要	1
ストレージプラットフォームを Azure ファイルにリダイレクトしています	3

ストレージプラットフォームをリダイレクトしています

概要

仮想デスクトップサービスの導入テクノロジーでは、基盤となるインフラに応じてさまざまなストレージオプションを選択できます。このガイドでは、導入後に変更を行う方法について説明します。

仮想デスクトップのパフォーマンスはさまざまな主要リソースに左右され、ストレージパフォーマンスは主要要因の 1 つです。要件の変化やワークロードの進化に伴い、ストレージインフラの変更は一般的なタスクです。ほとんどの場合、このテクノロジーはエンドユーザコンピューティング環境に最適なパフォーマンスプロファイルを提供するため、ファイルサーバプラットフォームからネットアップのストレージテクノロジー（Cloud Volumes ONTAP、Google での NetApp Cloud Volumes Service、AWS での NetApp Azure NetApp Files など）への移行が含まれます。

新しいストレージレイヤを作成します

このガイドでは、クラウドおよび HCI のさまざまなインフラプロバイダにわたってストレージサービスを提供する可能性が高いため、すでに新しいストレージサービスが確立されており、SMB パスが既知であることを前提としています。

ストレージフォルダを作成します

1. 新しいストレージサービスで、次の 3 つのフォルダを作成します。

- データ
- ホーム
- /pro

[]

2. フォルダ権限を設定します

a. [フォルダのプロパティ] で、[セキュリティ]、[詳細設定]、[継承の無効化] の順に選択します

[]

b. 残りの設定は、導入の自動化で作成された元のストレージレイヤの設定に合わせて調整します。

データを移動中

ディレクトリ、データ、ファイル、およびセキュリティ設定は、さまざまな方法で移動できます。次の Robocopy 構文は、必要な変更を達成します。パスは環境に合わせて変更する必要があります。

```
robocopy c:\data\zucd \\uyy-1c37.deskapps.mobi\zucd-data /xd ~snapshot  
/MIR /CopyAll /R:1 /W:1 /tee /log:C:\temp\roboitD.txt
```

カットオーバー時の **SMB** パスのリダイレクト

カットオーバーに時間がかかると、VDS 環境全体ですべてのストレージ機能がリダイレクトされます。

GPOs を更新します

1. Users GPO (named_ <company-code>-Users_) は、新しい共有パスで更新する必要があります。ユーザー設定 > Windows 設定 > 環境設定 > ドライブマップ_ を選択します

[]
2. [H_H:] を右クリックし、[プロパティ (Properties)]>[編集 (Edit)]>[アクション (Action)] : [置換 (Replace_)] を選択して、新しいパスを入力する

[]
3. クラシック AD またはハイブリッド AD を使用して、企業 OU の ADUC で定義されている共有を更新します。これは VDS フォルダ管理に反映されます。

[]

FSLogix プロファイルパスを更新します

1. 元のファイルサーバおよび他のプロビジョニングされたセッションホストで Regedit を開きます。



必要に応じて、GPO ポリシーを使用して設定することもできます。

2. 新しい値で *VHDLocations_value* を編集します。次のスクリーンショットに示すように '新しい SMB パス' は *plus_pro/profileconiners* になります

[]

ホームディレクトリのフォルダリダイレクト設定を更新します

1. グループポリシー管理を開き、DC= ドメイン、DC=mobi/Cloud Workspace/Cloud Workspace Companies / <company-code>/< company-code> - デスクトップユーザーにリンクされたユーザー GPO を選択します。
2. [ユーザー設定]>[ポリシー]> [Windows の設定]>[フォルダリダイレクト] で、フォルダリダイレクトパスを編集します。
3. 更新が必要なのはデスクトップとドキュメントのみで、ホームボリュームの新しい SMB パスマウントポイントとパスが一致している必要があります。

[]

コマンドセンターで **VDS SQL** データベースを更新します

CWMGR1 には、VDS データベースを一括更新できる Command Center というヘルパーユーティリティアプリケーションが含まれています。

最終的なデータベース更新を行うには、次の手順を実行

1. CWMGR1 に接続し、 CommandCenter.exe に移動して実行します

□

2. [Operations] タブに移動し、 [Load Data] をクリックして [Company Code] ドロップダウンに値を入力し、会社コードを選択して、ストレージレイヤの新しいストレージパスを入力し、 [_Execute Command] をクリックします。

□

ストレージプラットフォームを **Azure** ファイルにリダイレクトしています

概要

仮想デスクトップサービスの導入テクノロジーを使用すると、基盤となるインフラに応じてさまざまなストレージオプションを選択できます。このガイドでは、 Azure Files の導入後の使用方法を変更する方法について説明します。

前提条件

- AD Connect がインストールされ、設定されている
- Azure グローバル管理者アカウント
- AZFilesHybrid PowerShell モジュールです <https://github.com/Azure-Samples/azure-files-samples/releases>
- AZ PowerShell モジュール
- ActiveDirectory PowerShell モジュール

新しいストレージレイヤを作成します

1. グローバル管理者アカウントで Azure にログインします
2. ワークスペースと同じ場所に新しいストレージアカウントを作成し、リソースグループを作成します

□

3. ストレージアカウントの下に、データ共有、ホームファイル、およびプロファイル共有を作成します

□

Active Directory をセットアップします

1. Cloud Workspace > Cloud Worksapce Service Accounts OU の下に、「 "S storage Account" 」という名前の新しい組織ユニットを作成します

□

2. AD DS 認証を有効にする（ PowerShell を使用して実行する必要があります） <https://docs.microsoft.com/en-us/azure/storage/files/storage-files-identity-ad-ds-enable>

- a. DomainAccountType は「ServiceLogonAccount」にする必要があります。
- b. OrganizationalUnitDistinguishedName は、前の手順で作成した OU の識別名です（「OU = ストレージアカウント、OU = クラウドワークスペース、OU = クラウドワークスペース、DC = TrainingKrisG、DC = onmicrosoft、DC = com`」など）。

共有の役割を設定します

1. Azure ポータルで、CloudWorkspaceSVC および Level3 テクニシャンに「ストレージファイルデータ SMB 共有昇格寄与者」の役割を付与します

[]

2. 「Storage File Data SMB Share Contributor」ロールを「<company code> - All Users」グループに割り当てます

[]

ディレクトリを作成します

1. 会社コードを名前として使用して、各共有内にディレクトリを作成します（この例では、会社コードは「kift」です）。

[]

2. Pro 共有の <会社コード> ディレクトリに「ProfileContainers」ディレクトリを作成します

[]

NTFS 権限を設定します

1. 共有に接続します

- a. Azure ポータルのストレージアカウントの下にある共有に移動し、3 つのドットをクリックして、[接続] をクリックします

[]

- b. 認証方法として Active Directory を選択し、コードの右下隅にあるクリップボードにコピーアイコンをクリックします

[]

- c. Level3 Technician グループのメンバーであるアカウントを使用して、CWMGR1 サーバにログインします

- d. PowerShell で、コピーしたコードを実行してドライブをマッピングします

- e. 共有ごとに同じドライブレターを選択し、共有ごとに同じドライブレターを設定します

2. <company code> ディレクトリの継承を無効にします

3. システムおよび AD グループの ClientDHPAccess では、<company code> ディレクトリへのフルコントロールが必要です

4. ドメインコンピュータは、Pro 共有内の <会社コード> ディレクトリ、および内の ProfileContainers ディレクトリに対するフルコントロールを持っている必要があります
5. <company code> -all users AD グループには、ホーム共有および Pro 共有内の <company code> ディレクトリへの List フォルダ / read データアクセス権が必要です
6. <company code> - すべてのユーザー AD グループは、データ共有内のディレクトリに対する以下の特別な権限を持っている必要があります

[]

7. <company code> - すべてのユーザ AD グループは、ProfileContainers ディレクトリの Modify 権限を持っている必要があります

グループポリシーオブジェクトを更新します

1. Cloud Workspace > Cloud Workspace Companies > <会社コード>><company code> - デスクトップユーザーの下にある GPO <会社コード> ユーザーを更新します

- a. 新しいホーム共有を指すようにホームドライブマッピングを変更します

[]

- b. デスクトップとドキュメントのホーム共有を指すようにフォルダリダイレクトを変更します

[]

[]

Active Directory のユーザとコンピュータで共有を更新します

1. クラシック AD またはハイブリッド AD では、会社コード OU 内の共有を新しい場所に更新する必要があります

[]

VDS でデータ / ホーム /Pro パスを更新します

1. Level3 Technician グループのアカウントで CWMGR1 にログインし、コマンドセンターを起動します
2. [コマンド] ドロップダウンで、[データ / ホーム /Pro フォルダの変更] を選択します
3. [Load Data] ボタンをクリックし、ドロップダウンから適切な会社コードが選択されていることを確認します
4. データ、ホーム、およびプロの場所の新しいパターンを入力します
5. [Is Windows Server] ボックスをオフにします
6. コマンドを実行ボタンをクリックします

[]

FSLogix プロファイルパスを更新します

1. セッションホストでレジストリー時的に開きます
2. HKLM\SOFTWARE\FSLogix\Profiles の VHDLocations エントリを編集して、新しい ProfileContainers ディレクトリへの UNC パスにします

□

バックアップを設定します

1. 新しい共有のバックアップポリシーを設定して設定することを推奨します
2. 同じリソースグループに新しいリカバリサービスボルトを作成します
3. ボルトに移動し、はじめに（ Getting Started ）でバックアップ（ Backup ）を選択します
4. ワークロードが実行されている Azure を選択し、バックアップ対象の Azure ファイル共有を選択して、Backkup をクリックします
5. 共有の作成に使用するストレージアカウントを選択します
6. バックアップする共有を追加します
7. ニーズに合わせてバックアップポリシーを編集、作成できます

Copyright Information

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system- without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.